

ライト点灯について

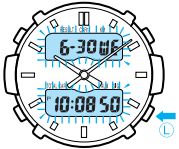
どのモード（セッ中は除く）でも、

Ⓛ ボタンを押します

→ 約 4 秒間デジタル部が発光します。

暗いところでも、デジタル部の表示を見ることができま
す。

<時刻モード>

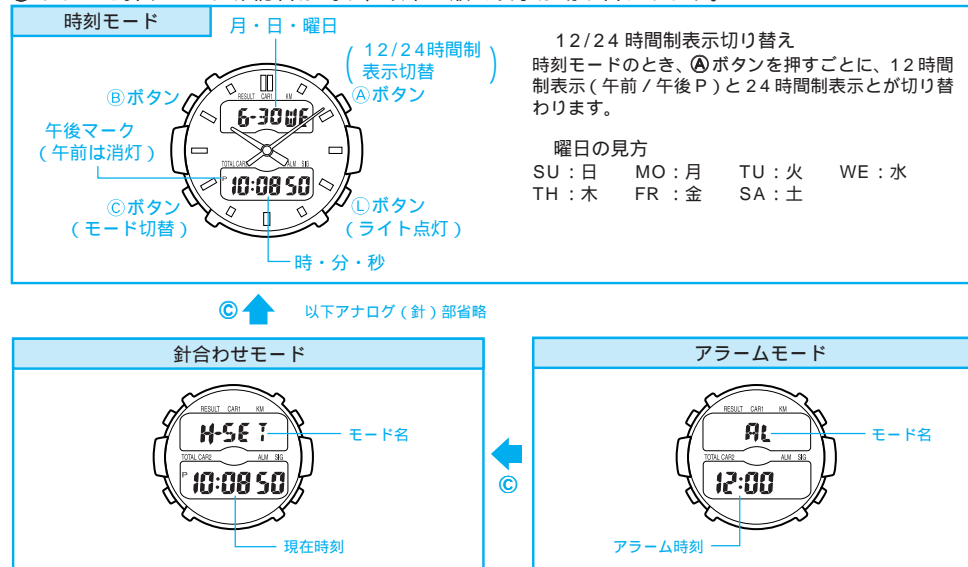


< EL 発光についてのご注意 >

直射日光下では、発光が見えにくくなります。
発光中でもアナログ（針）部の表示は見えにくくな
ります。
発光中にいずれかのボタンを押したり、アラームな
どが鳴り出すと発光を中断します。
発光中に時計本体より音が聞こえることがありますが
、これはELパネルが点灯する際の振動音であり、
異常ではありません。

操作のしくみと表示の見方

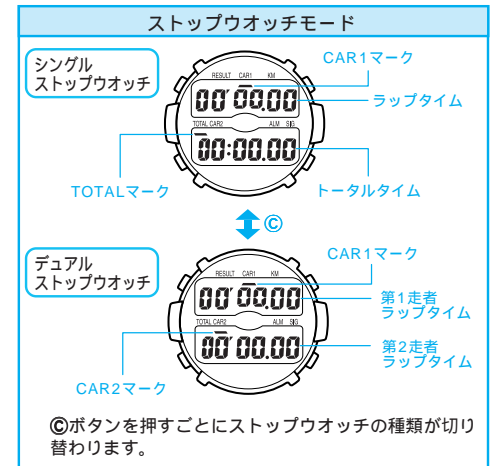
ⓐ ボタンを押すごとに確認音が鳴り、以下の順で表示が切り替わります。



ストップウォッチモード切り替え

どのモードのときでも、ⓐ ボタンを約 1 ~ 2 秒間押し続け
ると、ストップウォッチモードになります。

ストップウォッチモードのとき、ⓐ ボタンを約 1 ~ 2 秒
間押し続けると時刻モードに戻ります。



ストップウォッチの使い方

ストップウォッチの種類を選ぶ

本機のストップウォッチは<シングルストップウォッチ>と<デュアルストップウォッチ>の2種類があります。

準備: どのモードのときでも、**C** ボタンを約 1 ~ 2 秒間押し続けてストップウォッチモードにします。

ストップウォッチモードのとき、

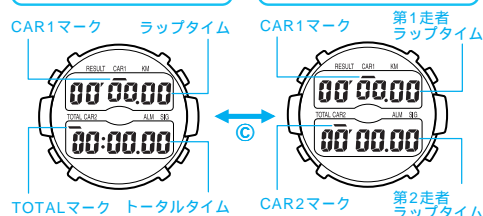
C ボタンを押します

⇒ **C** ボタンを押すごとに、ストップウォッチの種類が切り替わります。

計測中に **C** ボタンを押しても表示は切り替わりません。

シングルストップウォッチ

デュアルストップウォッチ

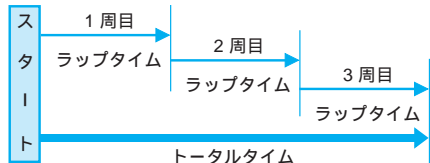


アナログ(針)部省略

シングルストップウォッチ

ラップタイムとトータルタイムを計測します。

* ラップタイム... 任意の区間(周回競技では1周分)を進むのに要する時間。
例: 陸上、モータースポーツなどの周回競技での1周あたりのタイム。



ラップタイム(上段に表示)

計測単位 = 1 / 100 秒

計測範囲 = 59分59秒99(60分計)

計測範囲を超えると、“- - - - -”表示となります。(このときのラップタイムは記憶されません)

トータルタイム(下段に表示)

計測単位 = 1 秒

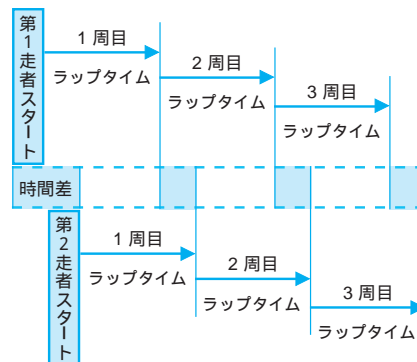
計測範囲 = 23時間59分59秒(24時間計)

ラップ数 = 1 ~ 99 回

計測範囲を超えると、以後 0 に戻って繰り返し計測を続けます。

デュアルストップウォッチ

別々にスタートした第1走者と第2走者のラップタイムを計測します。また、時間差を自動的に表示します。



ラップタイム(上段と下段にそれぞれ表示)

計測単位 = 1 / 100 秒

計測範囲 = 59分59秒99(60分計)

計測範囲を超えると、“- - - - -”表示となります。(このときのラップタイムは記憶されません)

シングルストップウォッチの使い方

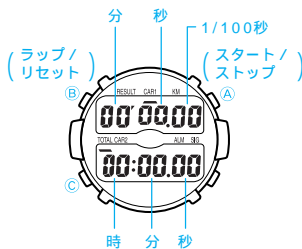
準備: ストップウォッチモードのとき、**C** ボタンを押して<シングルストップウォッチ>にします。

A ボタンを押すごとに計測がスタート/ストップします。計測ストップ後 **B** ボタンを押すと、計測値が 0 に戻ります。(リセット) ロスタイムのある場合は、ストップ後リセットせずに **A** ボタンを押して再スタートすれば、表示タイムに引き続き計測を始めます。(積算計測) 計測中に **B** ボタンを押すごとにラップタイムを計測します。

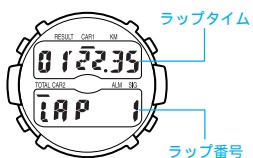
通常計測



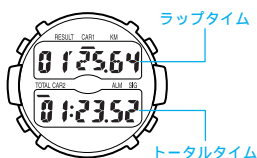
ラップタイム計測



B ボタンを押したときのラップタイムとラップ番号が 4 秒間表示されます。(この間内部では計測を続けています)



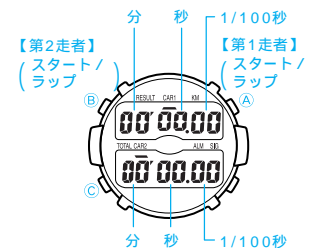
計測がストップし、終了時のラップタイムとトータルタイムが表示されます。(このときのデータは記憶されません)



デュアルストップウォッチの使い方

準備: ストップウォッチモードのとき、**C** ボタンを押して<デュアルストップウォッチ>にします。

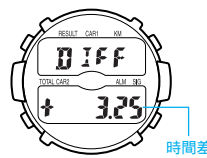
A ボタンを押すと第1走者の計測がスタートします。以後、**A** ボタンを押すごとにラップタイムを計測します。
B ボタンを押すと第2走者の計測がスタートします。以後、**B** ボタンを押すごとにラップタイムを計測します。
A または **B** ボタンを 1 ~ 2 秒間押しすと計測が止まり、計測値が 0 に戻ります。(リセット)



ラップタイム計測



第1走者の計測スタート後、第2走者の計測をスタートさせると、時間差が4秒間表示されます。(この間内部では計測を続けています)



第1走者のラップ計測を行なうと、そのときのラップタイムが4秒間表示されます。その後、第2走者のラップ計測を行なうと時間差が4秒間表示されます。(この間内部では計測を続けています)

時間差が10分以上になったときは、“- - - - -”表示となります。

第1走者と第2走者の順位が入れ替わったときは、時間差は-(マイナス)で表示されます。

第1走者と第2走者が同一周回でない場合は、+(プラス) -(マイナス)は表示されません。

ラップタイム計測を行なうと、そのときの上位5本のラップタイムとラップ番号を記憶し、リザルトモードで見ることが出来ます。

表示できるのは前回計測したシングルストップウォッチまたはデュアルストップウォッチのどちらか一方のデータ5本です。

(10 ページ、「計測したデータを見る」参照)

リザルトモードで区間距離(周回競技では1周分の距離)をセットすると、計測したラップタイムから自動的に平均時速が計算されます。

(10 ページ、「平均時速表示について」参照)

計測したデータを見る

ラップタイム計測したときの上位 5 本のデータをリザルトモードで見ることができます。

表示できるのは前回計測したシングルストップウォッチまたはデュアルストップウォッチのどちらか一方のデータです。

準備：時刻モードのとき、**Ⓒ** ボタンを 1 回押してリザルトモードにします。

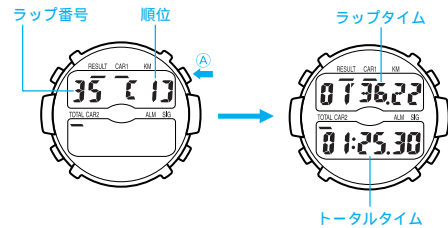
データの呼び出し

リザルトモードのとき、**Ⓐ** ボタンを押します

⇒**Ⓐ** ボタンを押すごとに、1 位から順番にタイムを表示します。

表示を切り替えた直後は、順位とラップ番号を 1 秒間表示します。

例) シングルストップウォッチで計測を行なったとき

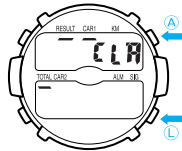


データを消す

新しい計測を始めると、前回記憶したデータは自動的に消されますが、任意に以下の方法で消すこともできます。

リザルトモードのとき、

Ⓐ ボタンと **Ⓘ** ボタンを同時に押します



⇒ "CLR" と表示され、記憶されているすべてのデータが消されます。

平均時速表示について

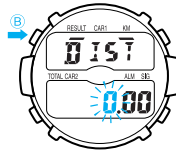
区間距離 (周回競技では 1 周分の距離) をセットすると、計測したラップタイムから自動的に平均時速が計算されます。表示できるのは前回計測したシングルストップウォッチまたはデュアルストップウォッチのどちらか一方のデータ 5 本です。

準備：時刻モードのとき、**Ⓒ** ボタンを 1 回押してリザルトモードにします。

区間距離の設定

(1) リザルトモードのとき、

Ⓑ ボタンを約 1 ~ 2 秒間押します



⇒ 区間距離の「小数点以上」が点滅します。

(3) セット箇所を選びましたら、

Ⓘ または **Ⓐ** ボタンを押します



⇒ **Ⓘ** ボタンを押すごとに数字が進み、**Ⓐ** ボタンを押すごとに戻ります。

Ⓘ・**Ⓐ** ボタンはそれぞれ押し続けると早く進みます。

(4) セットが終了したら、

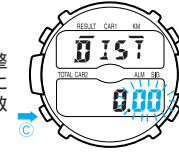
Ⓑ ボタンを押します

⇒ 点滅が止まり、セット完了です。

点滅表示のまま 1 ~ 2 分すると、自動的に点滅が止まります。

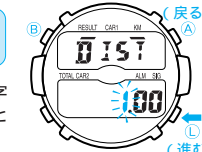
(2) **Ⓒ** ボタンを押します

⇒ **Ⓒ** ボタンを押すごとに「整数」「小数点以下」が交互に点滅します。点滅箇所の数字をセットできます。



(3) セット箇所を選びましたら、

Ⓘ または **Ⓐ** ボタンを押します



⇒ **Ⓘ** ボタンを押すごとに数字が進み、**Ⓐ** ボタンを押すごとに戻ります。

Ⓘ・**Ⓐ** ボタンはそれぞれ押し続けると早く進みます。

区間距離は 0.01km 単位で、0.01 ~ 99.99 の範囲内でセットできます。

(4) セットが終わりましたら、

Ⓑ ボタンを押します

⇒ 点滅が止まり、セット完了です。

点滅表示のまま 1 ~ 2 分すると、自動的に点滅が止まります。

平均時速を見る

(1) リザルトモードのとき、例) シングルストップウォッチで計測を行なったとき

Ⓐ ボタンを押します

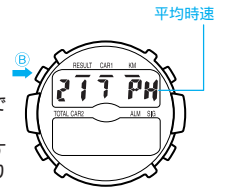
⇒ **Ⓐ** ボタンを押すごとに、1 位から順番にタイムを表示しますので見たい表示を選びます。



(2) **Ⓑ** ボタンを押します

⇒ 平均時速を表示します。

0 ~ 999km/h の範囲内で表示します。もう一度 **Ⓑ** ボタンを押すと、リザルトモードに戻ります。



< 時速が "Err PH" 表示 (エラー) となるとき >
時速の計算結果が 999 を越えたときは、正しく時速計算ができず、"Err PH" 表示 (エラー) となります。

デュアルタイムの使い方

デュアルタイムとは、現在時刻とは別に海外時刻などもう 1 つの時刻をセットできる機能です。

デュアルタイムの「秒」はホームタイムの「秒」に連動して表示されます。

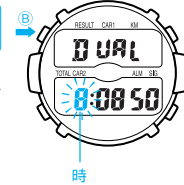
デュアルタイムの合わせ方

(1) デュアルタイムモードのとき、

アナログ (針) 部省略

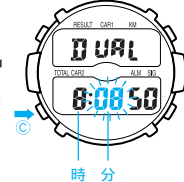
Ⓑ ボタンを約 1 ~ 2 秒間押します

⇒ デュアルタイムの「時」が点滅します。



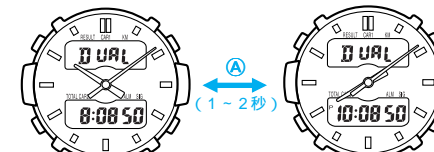
(2) **Ⓒ** ボタンを押します

⇒ **Ⓒ** ボタンを押すごとに「時」「分」が交互に点滅します。点滅箇所の数字をセットできます。



「時」のセットのとき午前 / 午後 (P) にご注意ください。

ホームタイムを 24 時間制表示にしているときは、デュアルタイムも自動的に 24 時間制表示となります。



例) ホームタイム 午後 10:08
デュアルタイム 午前 8:08

例) ホームタイム 午前 8:08
デュアルタイム 午後 10:08

アラーム・時報の使い方

アラームは分単位でセットでき、セットした時刻になると20秒間の電子音で知らせます。また、毎正時(00分)に時報を鳴らすこともできます。

アラーム・時報はホームタイムに合わせて鳴ります。

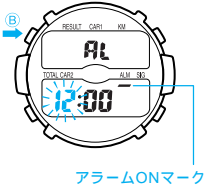
アラーム時刻のセット

(1) アラームモードのとき、

アナログ(針)部省略

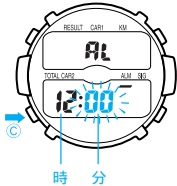
⑥ ボタンを約1~2秒間押します

→アラーム時刻の「時」が点滅します。アラームONマークが点灯します。



(2) ③ ボタンを押します

→③ボタンを押すごとに「時」「分」が交互に点滅します。点滅箇所の数字をセットできます。

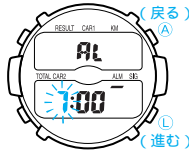


(3) セット箇所を選びましたら、

①または② ボタンを押します

→① ボタンを押すごとに数字が進み、② ボタンを押すごとに戻ります。

①・②ボタンはそれぞれ押し続けると早く進みます。



「時」のセットのとき午前/午後(P)にご注意ください。

ホームタイムを24時間制表示にしているときは、アラーム時刻も自動的に24時間制表示となります。

(4) セットが終わりましたら、

⑥ ボタンを押します

→点滅が止まり、セット完了です。

点滅表示のまま1~2分すると、自動的に点滅が止まります。

鳴っている電子音を止めるには

電子音が鳴っているときに、いずれかのボタンを押すと、音が止まります。

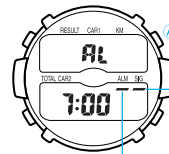
アラーム・時報のON/OFFの設定

アラームモードのとき、

② ボタンを押します

→② ボタンを押すごとに、マークが点灯/不点灯します。それぞれのマークが点灯しているときに「ON」となり、アラーム・時報が鳴ります。

時報ONマーク



アラームONマーク

なお、⑥ ボタンを押してアラーム時刻のセットを行なうと、自動的にアラーム「ON」に設定されます。

モニターアラーム(アラーム音を選ぶ)

アラームモードのとき② ボタンを押し続けると、押し続けている間、アラーム音が鳴ります。

アラームモードで、② ボタンを押し続けている間、① ボタンを押すごとに電子音が4段階で切り替わりますので、好きな音を選べます。

時刻・カレンダーの合わせ方

電池交換後などで、時刻・カレンダーが合っていないときは、以下の手順で合わせてください。

デジタル部時刻の合わせ方

(1) 時刻モードのとき、

アナログ(針)部省略

⑥ ボタンを約1~2秒間押します

→「秒」が点滅します。



「秒」合わせ... ±30秒以内の遅れ/進みの調整

時報に合わせて、① ボタンを押します

→「00」秒からスタートします。



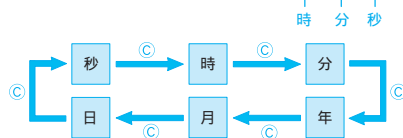
00秒になる

秒が00~29のときは切り捨てられ、30~59のときは1分繰りあがって「00」秒になります。(時報は「時報サービス電話117番」が便利です)

「時刻・カレンダー」合わせ

a. ③ ボタンを押します

→点滅箇所が以下の順で移動します。点滅箇所がセット可能ですので、③ ボタンを押してセットしたい箇所を選びます。



b. ①または② ボタンを押します

→① ボタンを押すごとに点滅箇所の数字が進み、② ボタンを押すごとに数字が戻ります。

①・②ボタンとも押し続けると早く進みます。



上記a、bの操作を繰り返して「時刻・カレンダー」を合わせます。

「時」のセットのとき午前/午後(P)または24時間制にご注意ください。

年は西暦で1995~2039年までセットできます。

カレンダーはうるう年および大の月、小の月を自動判別するフルオートカレンダーですので、電池交換時以外は直す必要はありません。

(2) セットが終わりましたら、⑥ ボタンを押します

→点滅が止まり、セット完了です。

点滅表示のまま1~2分すると、自動的に点滅が止まります。

デジタル部の時刻を修正すると、アナログ部の分針が、修正した分だけ、自動的に正転方向(進む方向)に進みます。(針は逆方向には進みません)

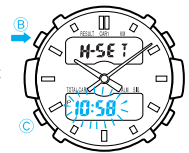
アナログ(針)部の合わせ方

電池交換後など、アナログ時刻が合っていないときは、以下の手順でアナログ時刻を合わせてください。

準備: ③ ボタンを4回押して針合わせモードにします。

(1) ⑥ ボタンを約1~2秒間押します

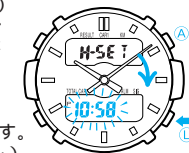
→デジタル部に現在時刻が表示され、点滅します。



(2) ① ボタンを押します

→分針が正転方向(進む方向)に進みますので、デジタル部の時刻と同じ時刻を表示させます。

① ボタンを一回押すと、1/3分(20秒)進みます。押し続けると早く進みます。(針は逆方向には進みません)



分針の自動早送り

① ボタンを押し続けている間、② ボタンを押すと、分針が自動的に早く進みます。

いずれかのボタンを押すと分針が止まります。時計針が一回りすると早送りが止まります。

(3) セットが終わりましたら、⑥ ボタンを押します

→点滅が止まり、セット完了です。

点滅表示のまま1~2分すると、自動的に点滅が止まります。